



前川中だより

教育目標 「自学」・「親愛」・「鍛錬」
「MAEKAWA PRIDE」～積小為大を实践する学校～
三郷市立前川中学校 令和7年3月3日(月)
生徒数 1年133名 2年124名 3年129名 特支24名 計410名

「積小為大」の精神を継続せよ

校長 中三川 真弓

「積小為大（せきしょういだい）」の大切さを、この一年間皆さんに訴えてきました。

——小を積んで大を為す。

これは、二宮金次郎（本名：尊徳）の言葉です。二宮金次郎、と言えば、かつて学校の敷地内に「薪を背負って読書をしながら歩く金次郎少年」の像が設置されていました。少年時代から仕事をしながらもこつこつ勉学に励む姿を見習うべきである！と、金次郎の勤勉さを称えたものでした。しかし、少年時代の金次郎はこの像に見るような生活をしていただけではなく、彼が成人してからの「農民たちのために自ら薪山に入り薪を伐りだしたこと」「たくさんの書籍によって勉学に励み地域復興を実現させたこと」といった姿勢が「人としての手本」とされ、当時の小・中学生が目指すべき姿として扱われるようになった、というのが実際のところのようです。

ただ、「なんだ、金次郎像ってウソなのか」と言うなかれ。このお話を簡単に片づけたくない理由は、金次郎の存在をこうまでも人々に知らしめた根拠となる“実績”にあります。

その実績とは、一言で表せば「人のため」を貫いたことにあるように思います。金次郎は、関東地方や東海地方を中心に、600を超える農村の復興を手掛け、多くの農民を救いました。あるときは農村の指導者が農民の信頼を失っていた村に入り、「自分が儲けようとして、他の人たちのことを考えないようでは人間として失格である」と指導者たちを諭しました。またあるときは自ら先頭に立ち用水路や堰、橋の改修を行いました。金次郎が取り組んだ農村復興政策は、日本の協同組合の礎になっているとも言われます。

ちなみに、金次郎が生まれたのは、お金持ちの家だったわけでも政治家の血筋をもつ家だったわけでもありません。どこにでもある一般的な農家の長男でした。後のすべての功績が、「ゼロからの出発」であったことは、言うまでもありません。たとえ最初は小さなことでも、できることから始めるしかない、小さなことでも、自分を、人を変えることができる、そうした強い思いがあったことでしょう。

金次郎を称えるべきは、仕事をしながら勉強に励んでいたという“偶像”ではなく、真に人のために、農村が豊かになってみんなが幸せになるために、考えに考えて自分の納得解を見出し、その結果を求めて尽力したことにあります。

——自分を信じる。信じられる自分をつくる。

この思いを常に携えていたであろう彼が唱える「積小為大 “小を積んで大を為す”」という言葉。彼が説くからこそ、説得力があります。

今、学校から“金次郎少年像”は消えてきているそうです（本を読みながら歩くななんて、「ながらスマホ」を連想させるだとか、子供に仕事をさせるなんてけしからん！だとかいう理由のようですけど）。しかし、彼の「農村復興」の功績は今も語り継がれ、成人した姿の“二宮尊徳像”は、彼が復興を手掛けた地域を中心に、今も設置が進んでいるそうです。

3月の予定

日	曜	行 事
1	土	市P連理事会・会長会/数検
2	日	
3	月	
4	火	民生委員・児童委員連絡会
5	水	
6	木	埼玉県公立入学許可候補者発表
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	3年給食終了
14	金	第43回卒業証書授与式
15	土	
16	日	
17	月	3年臨時休業開始
18	火	第4回保護者会
19	水	臨時生徒総会/給食終了 卒業生による進路講話（2年）
20	木	春分の日
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	表彰集会/ふれあいデー
25	火	大掃除
26	水	修了式
27	木	学年末休業日（～31日）
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

4月の予定

日	曜	行 事
1	火	春季休業日（～7日）
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	準備登校日
8	火	入学式/始業式
9	水	教科書給与/発育測定/自転車安全点検
10	木	防災訓練
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	給食開始/対面式
15	火	全国学力学習状況CBT調査（3年）
16	水	
17	木	専門委員会/全国学力学習状況調査（3年）
18	金	授業公開および保護者会
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	ふれあいデー
24	木	中央委員会
25	金	P T A新旧理事会
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	昭和の日
30	水	県学力学習状況調査（1年）

4月については現時点での予定となります。今後の変更については最新の学年通信等でご確認ください。

『さわやか相談室』のご案内 TEL 048-953-0099

○開室は、月曜日から金曜日、10時から17時までです。保護者の方も利用できます。

※事前にお電話をいただければ、スムーズにご利用いただけます。

『放課後の電話対応について』

電話対応時間は、11月から3月については7時45分より17時30分となります。（日課により早まる場合があります。）週休日の電話対応はございません。対応時間外において生徒の生命等に関わるが発生した場合は、警察及び三郷市教育委員会にご連絡ください。

三郷市教育委員会(048-953-1111)

ギリシャ語講座（１年生）

２月５日、１４日、１８日の３日にかけて、ギリシャ語講座を開催しました。当日は教わったギリシャ語で「ヤーサス！」とあいさつしたり、講師の方にギリシャ語で質問したり、交流を深めることができました。意外にも、日本でも通じるギリシャ語って、結構あるんですね。



資源回収・環境整備



２月１６日（日）、ボランティア生徒の皆さんとPTAの皆さんで第３回資源回収・環境整備を実施しました。地域の方々からも多くの古紙等ご提供いただきました。得られた収益は学校教育で有効に使わせていただきます。１年間ご協力ありがとうございました。

「校則について考える」 校則検討委員会から臨時生徒総会へ



１・２年生では今、校則を改めて見直し、変えていくもの、続けていくものを精査しています。前川中学校は、これまでの「決まっているから守る校則」から「私達にとって必要だから守る校則」に発想を転換し、将来を見据え、自らを律し、周囲との調和を図る人材の育成に努めます。

三郷市の未来を考える 中高生ワークショップ



２月２日（日）、市内中学校の代表生徒が鳩鳥プラザに集い、理想のまちづくりについて意見交換をしてきました。前川中からは赤石健誠さん、伊藤拓仁さん、栗野沙菜さんが代表として参加しました。お疲れ様でした！

鳩鳥ライオンズクラブ 善行賞表彰



２月２４日（月）、鷹野文化センターにて善行賞表彰状授与式が行われました。前川中学校は地域の子ども食堂支援で表彰を受け、白石暁翔さん、白石隼翔さん、菅野七海さんが代表で授与していただきました。また、社会福祉協議会主催のボランティア活動の取組で吹越真優さんが表彰されました。地域に貢献する素晴らしい取組です。これからも前川中全体で続けていきましょう。

令和6年度 三郷市学校評価システム 本評価:学校関係者評価シート(前川中学校)						
評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.46	4.00	地域性と時代性、生徒の実態を鑑み、本年度学校目標の一部を変更した。校長のリーダーシップの下、全職員一丸となって教育活動に取り組んでいる。特に道路学習の改善に重点を置き、キャリア教育を教科横断的に展開し、生徒の基礎的・汎用的能力を伸ばす学習指導、講演会等を実施している。
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.42		校務分掌に係る学校独自評価を年2回実施している。この結果を受けて分析を行い、改善に向けた提案・取組が行われ、日々改善を図っている。また、教科会や学年会で全学調や県学調等、客観的調査の結果分析を行い、よりよい学習・生活指導に向け、研究・実践を行っている。
		3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.38		キャリア教育の充実を図っている。生徒に将来の見通しを持たせ、「なぜこれを学ぶのか」「この力は将来どのように役に立つのか」を考えさせながら、学習指導や生徒指導をはじめとする教育活動にあたっている。
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.38	3.76	生徒の可能性を育み、広げるため、「積小為大」「あとひとつ」を合言葉に、学習面・生活面ともに粘り強く取り組む姿勢と基礎基本の定着を図っている。また、生徒の視野を広げ、様々な価値観の上に自己を確立できるよう、幅広い人材を招聘して講演会を実施している。さらに、自己の可能性への視野を広げるよう、体験活動も多く取り入れた。
	資質向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.77		「生徒の今と将来を守る」「自分自身の生活を守る」「共に働く仲間と学校を守る」を柱に、不祥事故の未然防止を図る研修を毎月定例で行っている。また、新聞記事を随時提供し、不祥事を自分事として捉える視点をもたせて教職員全体に指導している。
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.65		学習指導力の向上については、初任者をはじめとする年次研修者の研究授業を確案に行い、人材育成を図っている。また、本年度は学級経営やいじめ対応、特別支援教育の研修など、外部から専門家を招聘して研修を行っている。
授業等の状況	学力向上	7	学校は、ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.38		効果的にICT等を活用して導入の工夫を行い「何ができるようになるのか」を明確にして学習に取り組ませている。また、先進的な教員の授業を広め、「講義形式の授業から、自ら課題を見つけ、他者との対話を通して気づき、解決する形式で課題解決能力を育てる授業」の研究を行っている。本年度、タブレット使用率が著しく上昇している。
		8	学校は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.35		特に①特別な支援を要する生徒への学習支援、②学力向上につながる家庭学習、③不登校生徒への学習保障に係る課題解決に臨んだが、指導の方法や体制に課題が残る。次年度は、オンライン学習サービスの導入と手帳型生活ノートの採用により、自分を客観視しながら学力向上を図っていく。
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.54		三郷市「授業の心得」に基づいた指導を実施し、教員が振り返る機会を年に3度設けている。教員による指導をさらに徹底し、生徒の規範意識を高め、学力の定着につながるよう、指導している。
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.69	4.00	教員が積極的に授業研究に励み、生徒の学習意欲を高めて授業を行っている。そのため、教師の話聞けるときは聞き、話し合うときは主体的に話し合うなど、メリハリのある授業を展開できている。生徒は落ち着いて学びに向かうことができている。
	読書のまち	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.50	4.00	図書館を毎日開館しており、生徒の利用の機会が増加した。今年度、司書教諭・学校図書館司書による指導のもと、朝読書の時間で図書委員による「私の好きな本」の紹介や、ビブリオバトルを実施した。紹介した本は図書館に蔵書しており、生徒が図書館に足を運ぶきっかけとなっている。
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.38	3.67	毎朝、朝読書の時間を10分間設定し、生徒が落ち着いて読書に取り組むことのできる環境を整えている。また、生徒がさまざまな種類の本にふれることができるよう、15～20冊の本を1ケースに詰めた「前川セット」を各クラスに置き、読書活動を啓発している。
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.42		家庭科担当教諭と栄養教諭のT.Tにより食育の授業を実践している。朝食の大切さ、栄養バランスのとれた食事について学び、自身の食生活向上を図る一助となっている。給食時間には給食委員が昼の放送で献立紹介や食事の大切さを伝える放送をしており、生徒たちは給食中によく耳を傾けている。
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.04	3.33	各学年で、昼休みにボールの貸し出し等を行い、外遊びを推奨している。体育の授業や部活動に積極的に取り組む生徒も多い。一方で、体調不良やケガ等でなかなか体を動かすことのできない生徒も散見されるため、健康への関心を高める取り組みを要する。
指導・管理の状況	徳の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.46		担任のみが行うのではなく、学年職員全員で指導項目を分担し、ローテーションで授業を行っている。学年全職員で指導することにより、全員で本校の道徳教育を担っている自覚が高まっているとともに、授業の質の向上につながっている。
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.42		すべての授業や学校行事において、どのような生徒を育てたいか、どのようにアプローチするかをわねいと指導の方針を明確にして指導にあたっている。個別の指導が必必要となる場面もあるが、概して、生徒は思いやりがありルールよく守り、日常から道徳的実践意欲を高めているように見受けられる。
	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.38		言葉づかいや身だしなみ、時間を守ること等、教職員が大人モデルとしての自覚を持ち、率先垂範すべきであるという意識で教育活動にあたっている。課題がある教員に対しては、個別に指導を行い、改善を図っている。今後も自らの姿であるべき姿を示して、生徒に指導していく。
		18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.46	3.50	保護者の方や地域の巡回指導員の方のご協力をいただき、あいさつをさせる場面を意図的に設定している。校内でも、すれ違う際のあいさつ時の、授業の始業・終業のあいさつを、気持ちを整える上で重要なこととして継続的に指導を行っている。
		19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.38		公の場面での言葉遣いを、発表する際には「～と考えます。それは～だからです。」と定型を学ばせて発言させる等、授業をはじめとする日常のあらゆる場面を通して指導している。社会に出ていく上で必要な技能として、教員の指導の温度差をなくし、今後も継続して指導していく。
	生徒指導	20	学校は、児童生徒の不登校や問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.46		教育相談部会で個別の案件に対しケース会議を実施している。具体案を検討し、担任を中心にSC、SSWなどと連携して対応にあたっている。不登校の未然防止に係る面談等も充実させた結果として本年度12月時点での不登校率は5.38%であった。昨年度同時期の9.95%から大きく改善した。
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.58		担任を中心に、家庭と密に連絡をとり合い、指導方針と方法について共通理解を図り、迅速に対応している。必要に応じ、SCやSSW、医療機関、児童相談所等、第三者機関ともたえず連携を図って指導にあたっている。「スピードと誠意」を指導対応の合言葉としている。
		22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.69	4.00	フロア巡回による行動観察、声かけ、毎日の連絡ノートや、月に一度の生活アンケートで生徒から情報を収集し、早期発見・早期指導を行っている。また、部会で情報交換と指導方針の共有を行い、有事の際には迅速にいじめ防止等推進委員会を招集し、対応を協議して指導にあたっている。
	安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.69		安全主任を中心に、事業ごとのマニュアルを毎年点検、修正している。また、緊急時に備え、職員室前に「事故発生時における緊急体制」を掲示しているほか、地震・火警・不審者など、6項目のポケット版危機管理初動マニュアルを全教員が携行している。
		24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.65	3.83	安全主任の指示のもと、毎月の安全点検を確実にしている。破損等があった際は、すみやかに管理職に報告するという体制も整っている。生徒に対しては、毎日の登下校指導や学期ごとの自転車安全点検、交通事故防止への啓発を実施し、安全教育を行っている。
家庭・地域との連携	教育環境	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.35	3.83	生徒会本部や環境委員会が中心となり、日常の環境整備について全委員会でもポスター作成や呼びかけを行っている。さらに、ボランティア活動を推進し、落ち葉掃きの参加などを通して、地域美化にも貢献できる心を育てている。
		26	学校は、組織的に働き方改革を進めている。	3.31		自動探点ソフトの導入や日課表の見直し等、物理的な面からの支援を行う他、研修を行い効率的な指導による勤務時間短縮を図っている。11・12月の時間外勤務が80時間を超えた教員数は、昨年度同期と比べ4で、0名であった。45時間以上についてはともに21名と変化はなかったが、教職員の勤務時間削減の意欲は高まっている。
	家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.54	3.83	ホームページを積極的に更新し、学校や生徒の様子を地域にも発信している。また、学校だよりは、地区長様を通して校区内全戸に配布し、学校全体に関わる予定や行事、その成果を発信している。学年だよりではさらに詳しく学年の予定や生徒の努力の様子等を発信している。
		28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.19	3.00	様々な方々に学校行事の運営に大きな協力をいただき、また、PTA各委員会と連携し、薬物乱用防止教室や人権教育週間の取組の一部、親の学習等を実施した。学校応援団の方には、敷地内の除草作業等を通じ、円滑に学校教育活動が行われるよう、支援していただいた。
		29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.35	3.83	PTAや地域と連携して、年に3回、資源回収を行っている。また、地域青少年育成会と共に長期休業中の見回り活動などを実施している他、地域防犯の観点から、吉川警察署に協力を仰ぎ、地域懇談会にて「SNSなどをめぐる福祉犯罪被害と対策」講演会を計画した。

